

# 第19回バリアフリー推進勉強会in関西 「地下鉄駅舎のバリアフリー施策について」

大阪市高速電気軌道(株)  
交通事業本部 建築部  
駅リニューアル企画第一課長  
南都 博志

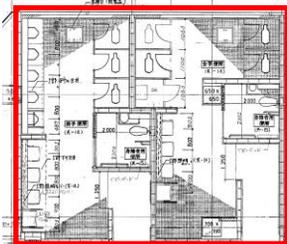
## Osaka Metroでのバリアフリーの取組み

▼ <a href="#">エスカレーター・エレベーター</a>	▼ <a href="#">可動式ホーム柵</a>	▼ <a href="#">段差・すき間対策</a>
▼ <a href="#">多機能トイレ</a>	▼ <a href="#">授乳室</a>	▼ <a href="#">案内設備</a>
▼ <a href="#">視覚障がい者誘導用ブロック</a>	▼ <a href="#">幅広改札機</a>	▼ <a href="#">身体障がい者対応型券売機・点字運賃表</a>
▼ <a href="#">二段手すり・点字案内</a>	▼ <a href="#">折りたたみ式スロープ</a>	Osaka Metro HPより

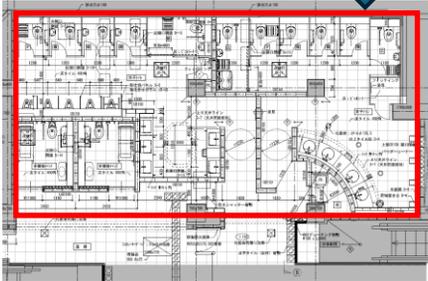
Osaka Metro では、大阪市交通局の時代からすべての人が安全かつ円滑な移動が可能のように「エスカレーター・エレベーター整備5か年計画（1991～1995年度）」をスタートに2010年にはエレベーターによるホームから地上までのワルートを整備するなど他にも車両のバリアフリーとして車いすスペースや車内案内表示、多機能トイレなどの駅施設のバリアフリー化を積極的に進めてきました。

Osaka Metro としても、これまでのバリアフリー施策の充実を図りつつ、“子育て”、“情報”、“心”のバリアフリーをテーマに加えた「バリアフリー化推進指針」を策定し、今後もすべての人にやさしいOsaka Metro を目指してまいります。

## 車椅子使用者用便房（多機能トイレ）



広さ約1.5倍



心齋橋駅 長堀鶴見緑地線1996年建設時  
当時は「身障者用便所」と表記  
設置されている器具類は現代と比べると簡素  
であり快適性のレベルも現代としては低い

↓  
20年後に整備したトイレと比較すると  
↓

心齋橋駅 上記トイレを2016年全面リニューアル  
トイレ全体としても面積を約1.5倍に拡大  
現代に必要とされている器具類を装備  
例：折りたたみ式大型シート(ベッド)  
パウチ・しぶん洗浄水栓付き背もたれ 等  
安全性・快適性を上げる設備も装備する  
例：出入口自動扉  
温水洗浄便座&ボタン式便器水栓  
人感センサー&タイマー制御 等

## 可動式ホーム柵 段差・すき間対策 Osaka Metro HPより



ホームからの転落事故や、列車との接触事故を防止するため、可動式ホーム柵を設置しています。

2025年度末までに全駅設置を目指して、可動式ホーム柵整備を進めています。

[設置状況の詳細はこちら](#)

可動式ホーム柵 各路線設置状況

御堂筋線	谷町線	四つ橋線	中央線	千日前線	堺筋線	長堀鶴見緑地線	今里筋線	ニュートラム
○	2025年度末 設置完了予定	2024年度末 設置完了予定	2024年度末 設置完了予定	○	○	○	○	○

### 段差対策

ホーム床面を電車側に向けてスロープ状にかさ上げしています。  
路線によっては床面高さの異なる電車が混在しているため、一部の電車の段差が20から70ミリメートルとなっていますので、乗り降りの際はご注意ください。

### すき間対策

ホーム先端にくし状のすき間材（ゴム製）を設置し、電車とホームが接触しない最小限のすき間（約20から35ミリメートル）としています。  
ただし、ホームが曲線になっている箇所では、すき間が大きくなりますので、乗り降りの際はご注意ください。

Osaka Metro では、最高の安全・安心を追求するため、可動式ホーム柵を設置することに併せて、ホームと車両との段差・すき間の解消にも取り組んでいます。

### 【可動式ホーム柵の設置状況】

設置済み：御堂筋線、千日前線、堺筋線、長堀鶴見緑地線、今里筋線、ニュートラム  
2024年度末設置予定：四つ橋線、中央線  
2025年度末設置予定：谷町線

段差・すき間対策は可動式ホーム柵設置後に整備

